

平成26年度 研究発表会（最終報告）

【全体会②】

「できますシート」について

平成27年 1月30日
京都市立西総合支援学校
研究主任 上田 文彦

<内容>

- できますシートとは？
- 今年度の取組
- 成果と課題

できますシートとは？

できますシート① (できるを次の展開につなぐ) 平成26年 月 日版

だれが	
目 標	
いつ	どこで
だれと	
手だて	
セッティング (状況づくり)	アプローチ (支援)
こんなことができた (手だて付きで記入)	
「できた」ことで、まわりの反応や対応 (もの・こと) がどう変わったか？ 子どもはどのように感じてきたか？ (観察)	

学習の事前準備や状況づくりなど物理的な環境を整えること

指導者や支援者による直接的なかかわりや支援のこと

手だて(状況づくりや支援)付きで、子どもたちが「できた」具体的な内容

手だて(状況づくりや支援)付きで、子どもたちが「できた」ことで得られた、まわりの反応や対応、「できた」の結果

「できること」として般化させるために確認が必要なこと

確認したいこと (あれば)



新しい「できる」のアイデア
(「できる」を活かす場面、次できそうなこと等)

この学習で見つけた「できる」「できた」ことを活かすための次の場面や次にこんなことができそうだと思うこと

できますシートとは？

＜できますシートとは、何か？＞

子どもの「できる」からスタートし、次の「できる」を考えるためのもの

次のステージに「できる」を“伝えて繋ぐ”ためのもの

子どもの「できる」を指導者間で共通理解するためのもの

＜25年度の成果＞

小学部…交流学习や活動する場面を拡げ「できる」を活かした実践

中学部…次の学習での手だてを考慮した実践

高等部…24年度の「できる」から、取組を繋ぐ実践



- 次のステージに「できる」を伝えて繋ぐために有効
- 子どもの「できる」を指導者間で共通理解するために有効

…などの成果が見られた

<25年度の課題>

25年度の実践では、各学部それぞれの活用方法で実践した



- 各学部とも使用頻度が少なく、使用する場面での違いがあった
- 全校的な拡がりが少なかった



校内で統一した取組方法で取り組んでいく

＜今年度の取組＞

- 5月 コーディネータ研修会（学部長，学年主任，ワーク担当など）
⇒中鹿先生に「できますシート」の考え方や書き方についての
研修をして頂く
- その後 学年主任より各学年の教員に伝達研修
⇒全校に「できますシート」考え方や書き方を広げる
- 6月～ 全校九つ（各学部三つ）の学習ユニットで、「できます授業」と
「できます会」を実施
⇒それぞれの学習ユニット開始日までに1枚目の「だれが・目標
・いつ・どこで・だれと・手だて」を担当者が記入し「できま
す会」で2枚目へと更新していった

今年度の取組

6月

7月

9月・10月

12月・1月

⇒各ユニット年間4回の「できます授業」と「できます会」を実施



今年度の取組

高7 できますシート① (できるを次の展開につなぐ) 平成26年6月		高7 できますシート② (できるを次の展開につなぐ) 平成26年7月	
<p>だれが</p> <p>目 標 洗濯の活動の中でタグ表示や素材についてインターネットで調べる。</p> <p>いつ 学年ユニット</p> <p>どこで</p> <p>だれと 担任、学年TS</p> <p>手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人が分かりやすいように文字と一緒に写真や、絵などを使った手順書を用意する。 手順書に検索のキーワードを記入しておく。 手順書が見やすいように手元におけるサイズにする。 洗濯におけるさまざまな場面を、調べる内容を用意する。 「できる」内容で視覚を設定し、白標に貼げる。 <p>セッティング (状況づくり)</p> <p>こんなことができた (手だて付きで記入)</p> <p>「でき」ことで、まわりの反応や「もの・こと」がどう変わり、子どもどのように返ったか? (観察)</p> <p>確認したいこと (あれば)</p>		<p>だれが</p> <p>目 標 必要な情報を (画像) をインターネットで調べ、印刷する。</p> <p>いつ 学年ユニット</p> <p>どこで 高1-3教室</p> <p>だれと 担任、学年TS</p> <p>手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人が分かりやすいように文字と一緒に写真や、絵などを使った手順書を用意する。 検索ワードを記入したパソコン画面を手順書に入れる。 さまざまな場面を、調べる内容を用意する。 「できる」内容で視覚を設定し、白標に貼げる。 <p>セッティング (状況づくり)</p> <p>アプローチ (支援)</p> <p>こんなことができた (手だて付きで記入)</p> <p>「でき」ことで、まわりの反応や「もの・こと」がどう変わり、子どもどのように返ったか? (観察)</p> <p>確認したいこと (あれば)</p>	
<p>新しい「できる」のアイデア (「できる」を辞書の略語 某で)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べ大臣に任命する。 依頼されたこと (洗濯を買いに必要情報) を調べる。 調べたことをやってみる。 必要なスキルを身につける。 好きなことをたくさん見つけ出す。 		<p>新しい「できる」のアイデア (「できる」を辞書の略語 某で)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べ大臣に任命する。 依頼されたこと (洗濯を買いに必要情報) を調べる。 調べたことをやってみる。 必要なスキルを身につける。 好きなことをたくさん見つけ出す。 	

<できますシートを活用した目的>

- 「今のできる」から「次のできる」の考え方を知り、児童生徒の確実なキャリアアップに繋げる
- 「できます授業」を行い、「できます会」で他学部主任からの意見を取り入れた授業改善を行う
- 「できます会」で討論・検討した「質の高い、できるの情報」を情報バンクに蓄積していく

〈成果〉

- 年間を通して計画的に取り組んだので，確実な更新ができた
- 「できます会」がたくさんの教員との意見交換の場となった
- 一人の児童生徒について考えていくことが，結果として授業全体の質を高めることができた

…という各学部からの報告



- ★授業の度に，必要な手だてや教材の工夫や改善がなされた
- ★子どもの主体的な姿を引き出すことができた

〈課題〉

○校内で九つのユニットを進めていくことは、教員の大きな負担となった
⇒「学部・学年会」や「教材研究」をする時間の確保が難しい…

そこで…

各ユニット5回の「できます授業」と「できます会」を計画していたが
4回に減らすこととなった…

○「できますシート」を「できます会」参加の教員で共通理解しながら作成していったので、初めてシートを目にする支援者には言葉足らずなものになってしまった…

伝えて 繋ぐ

情報バンク

授業

授業計画シート

推移表から短期目標を更新

有効な手立ての検討

↓
質の高い情報

↓
短期目標の更新

個別の包括支援プラン